

第3回 第5次総合計画策定全体ミーティング会議内容骨子

開催日時：平成 29 年 12 月 7 日（木） 18：30～20：25

会場：市役所 8 階大ホール

(1) 第5次茅野市総合基本構想(素案)について

11/28 開催の第 7 回総合計画審議会で提示した基本構想（素案）の内容について説明

<主なご意見>

- ・「人口が減っていく、高齢者が増える」とマイナスのことばかり書かれているが、元気な高齢者が身につけてきた知恵などを地域活動やまちづくりなどにどう関わるかが大切になる。基本指針 3 「21 世紀を生きる力を育む仕組みづくり」の中に高齢者も含めた生涯学習の推進や文化の振興の内容を含めても良いのではないか。

⇒基本指針 3 では、茅野市の将来を担う子どもたちへの教育を中心に記載している。高齢者も含めた生涯学習や文化に関することは、直接的な表現はないが、第 4 節「まちづくりを進める基本政策・政策横断プロジェクト」の子育て・教育・分野の目指す姿等で書かせていただいている。

- ・公立化する諏訪東京理科大学の関係が位置付けられていることは評価する。10 年後には自動運転自動車が増えているかもしれないし、諏訪理科には関係した研究をしている人もおり、地域の産業界との連携がますます重要になる。諏訪理科との連携に対して基本指針 2 「まちの活力の向上を図る仕組みづくり」に書かれているが、これだけで良いのか。

⇒公立諏訪東京理科大学との連携については非常に大切だと考えている。いただいた意見を分野別計画の中で反映させていく。

- ・どういった企業誘致を進めるのか、工業用地の確保をどうしていくのか、市としての方向性をこの中に入れるべきではないか。

⇒市の産業振興の方向性については、基本政策の方向性（資料 2）の中で触れさせていただく。

- ・基本指針の 5 に「あらゆる主体による協働のまちづくりに向けた仕組みづくり」があり、構想の推進に「市民参加と協働による自助・共助・公助のまちづくり」がある。「市民参加と協働による…」の中には、「パートナーシップのまちづくり」という言葉が出てこない。ここでやろうとすることは、パートナーシップのまちづくりとは別のものなのか。

⇒これからのパートナーシップのまちづくりをどうしていくのか、そのことについては、現在、パートナーシップのまちづくり推進会議で議論いただいている。推進会議での議論も踏まえ、この記載については修正していく。

- ・都市基盤にある緑の基本計画には、公園や街路樹、里山の関係が入っていると思う。里山も含めた景観はある意味自然環境の一つだと思う。里山を緑の基本計画から切り離して、環境基本計画に一本化することはできないか。

⇒環境基本計画と緑の基本計画には重複するような内容が書かれている。各計画を見直す中で、重複する事業をどうするか、整理していきたい。

- ・基本政策の並び順は、市民プランを踏襲したものだと思うが、それに捉われずに、関連性が強いような政策を並べるといったことはできないか。

⇒事務局で整理して、次回審議会で協議させていただく。

(2) 各政策の目指す姿等について

基本政策、政策横断プロジェクトの目指す将来像等について説明

<主なご意見>

- ・市内産業の成長率について、どこをターゲットにしているのか。また、産業の成長を見込んで一方、人口が減っていく、税収入が減っていくとしている点に整合性があるのか。

⇒現在、産業ごとの振興ビジョンを策定しており、産業ごとターゲットは変わってくる。また、人口推計の際は、出生率や転入・転出の関係を表す純移動率を指数として用いており、経済成長率という観点からは、推計に反映されていない。

- ・基本政策と政策横断プロジェクトとの関係はどうなるのか。

⇒政策横断プロジェクトには、市の特徴的な取組や複数の政策にまたがるような取組を位置付けている。各計画への位置付けについては、取組によって様々な形が考えられる。